厚別区研究実践園 研究事業 研究便り

きたのこだより

札幌市立あつべつきた幼稚園 令和5年 10 月発行 第2号

白石区は『きくもとパワー』（研究便り）として、同じ内容を発信しています。

白石区のきくすいもとまち幼稚園と１回目の合同研究を行いました！

きくすいもとまち幼稚園の保育参観・事例研究を通して話し合ったことを一部ご紹介します。

●研 究 主 題　質の高い幼児教育の実現に向けて
～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～

●副　主　題　白石区／厚別区
～遊びを通した幼児期の学びとは～

●研究の視点　主体的・対話的で深い学びの充実

＜あつべつきた幼稚園の研究の重点＞

重点：「一人一人が自分の力を発揮するための環境構成と教師間の連携の在り方」

～一人でじっくり・友達と一緒に・みんなで学びをつなげよう！～

事例研究では、一人一人が自分の力を発揮している姿や、幼児が心を動かし、粘り強く取り組むことによって学んだことなどの深い学びについて、またそのために行った環境の構成や教師間の連携について話し合っています。

きくすいもとまち幼稚園の事例
年長組の「さくらおまつり」を経験して、年中「すみれおまつり」へ（年中７月）

●環境の構成
・年長の行った『さくらおまつり』にお客さんとして参加する。年長のお店を見て「自分もやってみたい！」と心を動かす。
・片付けの様子を見ることで、仕組みを知り、「自分でもできそう」というイメージをもてるようにした。
・やりたいことがすぐに実現できるように、材料を用意した。

●教師間の連携
・『すみれおまつり』が始まることを予想し、場所や時間の調整を行い、年中児の思いが実現できるようにした。
・年長児がお礼に行き、感じたことをすぐに伝え合えるように配慮して、年中児の満足感や自信に繋がるようにした。

幼児の姿（下線部は、一人一人が自分の力を発揮したと捉えた姿）
・『さくらおまつり』のことを思い出しながら、必要な物を考えたり、作ったりした。
・自分の分の商品は求めず、全て売れたこと、お客さんが喜んでくれたことに満足感をもち、「年長のようにできた」という手応えを感じている様子だった。

話合いより（抜粋）

一人一人が自分の力を発揮している姿と深い学び
・『さくらおまつり』でお客さんとして満足したことで、自発的に「やってみたい」気持ちが芽生えたのではないか。
・すぐに取り組める環境を用意していたことで、集中して、目的意識をもって取り組めたのではないか。

〈白石区・厚別区研究実践園 研究アドバイザー〉
北翔大学 教育文化学部 教育学科

准教授　工藤　ゆかり　先生　より

・幼児は、人的環境、物的環境の中で育つ。「モノ・コト」「人・場所」との出会いをデザインし、環境を構成することで、遊びを通して幼児の思考・態度を育むことが保育者の役割である。
・「年齢を超えた関わり」と「同学年での関わり」による経験の違いを整理し、意図的に環境を構成することで、保育がより豊かになる。

後期は、「年齢を超えた関わり」と「同学年での関わり」による経験や学びの違いについて深めながら、研究を進めていきたいと考えています。

訪問研修を行っています！

幼児教育を支える専門性と指導力を兼ね備えた人材の育成に向けて、幼稚園、認定こども園、保育所等、市内幼児教育施設を対象として、各施設のニーズに応じた研修を研究実践園教諭が施設に訪問して行います。

研修のテーマは、以下の４点です。

・子どもの姿を語り合おう
・夢中になって遊ぶ環境の構成を考えよう
・一人一人に寄り添い、共に育ち合う集団づくりのために
・子ども理解と保護者支援

詳細、申し込み方法は、札幌市 HP を御覧ください。
https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/youjikyouiku/yousenn/kennkyuu2.html

実際の研修の様子を一部ご紹介します！

白石区

「夢中になって遊ぶ環境の構成を考えよう」

前半はパワーポイントをもとに“幼児教育の基本”と“環境を通して行う保育における保育者の役割”などについて、実際の保育環境の写真や遊びのエピソードを交えながら 20 分ほど説明しました。
その後、少人数のグループに分かれて、共通のテーマに沿って話し合いの時間を設け、最後に各グループの話し合われた内容を発表してもらい、共有しました。
参加者の先生たちがとても熱心に意見を出し合い、時間が足りないほどでした。

参加者のご感想より

子どもたちの「楽しかった！」という気持ちを大切にしながら、遊びを展開していきたいと思いました。

グループで意見を出し合うことで、自分では思い浮かばないことに気付くことができました。

厚別区

「一人一人に寄り添い、共に育ち合う集団づくりのために（特別支援教育）」

初めにインクルーシブ教育と幼児教育の共通点などを説明し、一人一人に寄り添う関わりの大切さについてお伝えしました。その後、園児の事例をもとに話し合いをしました。
担任の困りや成長への願いについて園全体の職員で話すことで、担任だけでなく、一人の子どもに対して、どのような援助や環境の構成が工夫できるのかを熱心に話し合い共有することができました。
また機会があれば研修したいという感想が多く、研修の機会を自主的につくりたいという声も聞かれました。

当日の資料より

２ 共に学び、共に育つために

幼児一人一人の発達の特性と発達の課題

その子らしい
見方、考え方、感じ方、
関わり方など

幼児の生活、
活動の中から
見出される課題

幼児一人一人の発達の特性を生かした集団づくり
共に学び、共に育つ幼児教育は
インクルーシブ教育システムに通じる

参加者のご感想より

職員間で一人の子どもについて取り上げて話し合う機会がもてなかったので貴重な機会となりましたった。

インクルーシブの考え方で環境や関わり方を見直すきっかけになりました。

札幌市立きくすいもとまち幼稚園　令和５年度研究通信　　第３号

きくもとパワー

10月24日に本園で実践発表会が行われました。約50名の皆様にご参加いただき、本園の教育についてご示唆をいただきました。

札幌市立きくすいもとまち幼稚園の研究

研究主題　質の高い幼児教育の実現に向けて～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～
副主題　白石区／厚別区 ～遊びを通した幼児期の学びとは～
研究の重点　一人一人が自分の力を発揮するための、環境の構成と教師間の連携の在り方
～年齢の枠を越えた関わりを通して～

当日の遊びの様子から、参観者の見取りや研究協議で話し合われたことを紹介します。

一人一人が自分の力を発揮し、自分なりに学んでいる姿

環境の構成と教師の援助

年少3歳児

・安心感をもち、のびのび遊ぶ姿
・やりたいことにじっくり取り組む姿
・環境に自ら働きかけている姿

・一人一人の思いを大切にする
・別々の遊びをしている幼児が繋がれるような関わり
・教師が遊びに変化を加える

年中4歳児

・たっぷり遊び込む姿
・挑戦する、自分が納得するまで行う姿
・考えを話す、友達の話を聞く姿

・やりたい思いを実現できる道具
・すぐに答えを伝えず、考える促し
・活動を振り返られるポートフォリオの活用

年長5歳児

・経験を生かす、工夫する姿
・自分たちで話し合いながら遊びを進める姿
・イメージ、目的を共有し、協力する姿

・継続して遊べる場の保障
・イメージが実現できる用具や素材
・教師の遊びへの意図的な関わり

教師の連携

・各年齢のねらいをおさえた上で、異年齢の関わりに広げる。
・異学年の遊びが見える環境

助言者より

北翔大学 教育文化学部 教育学科
准教授 工藤 ゆかり 氏

遊びを通して、試行錯誤し、成功体験をすることは、3つの資質・能力が育つ場面である。教師は子どもの内面を読み取って関わり、支え、環境を再構成していた。子どもがやりたいことをキャッチし、柔軟に対応しながら「ねらい」に向かうための保育が展開されていた。それぞれの園の教育活動があるが、遊びを通した教育の参考にしていただければと思う。

札幌市教育委員会幼児教育センター
指導主事 吉本 学 氏

教師発信ではなく、子ども発信の遊びであることが、まさしく「主体性」である。年長の遊びから、年少・年中にも継承されている。

また、幼保小連携では、特別支援教育がポイントとなる。幼稚園のインクルーシブ教育は、小学校、中学校に繋がっており、子どもの興味や関心を活動にどう繋げていくかを考えていくことが大切である。

11 月7日に厚別区のあつべつきた幼稚園の保育参観を通して、

2 回目の合同研究を行いました！

札幌市立あつべつきた幼稚園の研究

●研 究 主 題　質の高い幼児教育の実現に向けて　～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～
●副　主　題　白石区／厚別区　　～遊びを通した幼児期の学びとは～
●研究の視点　主体的･対話的で深い学びの充実
● **研究の重点「一人一人が自分の力を発揮するための環境構成と教師間の連携の在り方」**
～一人でじっくり･友達と一緒に･みんなで学びをつなげよう！～

当日の遊びの様子を一部紹介します　〈主体的で対話的な遊びを通した保育の実践〉

年中児〈クレーンゲーム〉

年中児「クレーンゲームをしに来てください。1回50円です。」

年長児「今はお面を作っているから、後で行くね。」

じっくりと試したり工夫したり

思いや考えを伝え合う応答する

年中児「ここにお金を入れて、レバーを動かしてください。」

年長児「どうやってやるの？」

年長児〈ブレーメンの劇ごっこ〉

「オンドリが使う楽器ができた！」

「ロバのお面、こんな風に作ってみよう！」

友達と関わりながらより楽しく

なりきる、表現することを楽しむ

「僕たちの出番はまだだね。」

「仲間が増えると楽しいね！」

「こんな動き方がネコっぽいね。」

『今日の保育』を通して考えてみよう！〈振り返り〉

～一人でじっくり！と友達と一緒に！を同時展開～　話合いより一部抜粋

話合いのポイント！

環境構成　一人でじっくり　友達と一緒に

良かったところはどこかな？ 他に考えられることはあるかな？（考察）

・クレーンゲームのやり取りは面白かった！じっくり作っている所に、友達が興味をもって、仲間になっていた。

※一人の思いをしっかり受け止めて支えたことが友達と繋がることにつながった。

・同年齢で楽しみたい幼児の思いと、異年齢を交えた方が学びが深まるのでは・・・と考える教師の思いの中で援助に迷うことがある・・・

※今はどちらが必要な経験なのか常に見極めることが求められる。

話合いのポイント！

教師間の連携

みんなで学びをつなげよう

良かったところはどこかな？ 他に考えられることはあるかな？（考察）

・年長児が年中児の話をしっかり聞いて、応答性のある対応をしていた。日頃から？

※年下の子に優しくありたいと思うが由に、して欲しくないことを伝えられずにいる姿もある。

相手を認める姿勢が育つと同時に自分の思いを伝えることを常に意識して指導している。

・いろいろな遊びが並行していた。それぞれの遊びを支えるために、どのように援助しているのか？

※週案の打ち合わせや日々の保育の振り返りで、互いの遊びの様子を共有。さらに、遊びの展開によって教師同士がその場で伝え合っている。

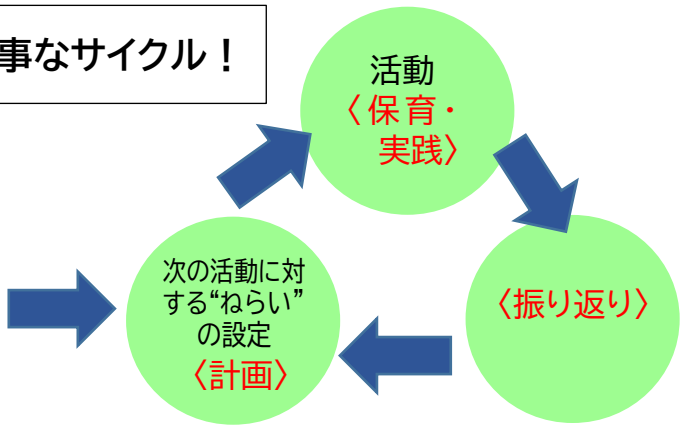
ここが大事！！

保育と研究の大事なサイクル！

今後に向けて　〈計画〉

・さらに遊び（学び）が深まったり、広がったりするための環境をどうしていく？

・学びをつなげていくためには、教師間はもちろん、地域や学校とどのようにつながっていけるかな？



〈白石区・厚別区研究実践園　研究アドバイザー〉

北翔大学　教育文化学部　教育学科　**准教授　工藤　ゆかり先生**

・「もっとこうしたらいいんじゃないか？」と幼児が自ら気付いてやってみる（主体的）ことから始まり、自分だけで納めず友達に伝えて一緒（対話的）に試行錯誤しながらやってみる。それをいろいろな場面で繰り返していくことで、『深い学び』になっていく。そのために、常に幼児をプラスの目で見ることを忘れず、幼児の気付きや思い、考えに共感したり環境を整えたりしていくことが大切ですね。